

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	149400082	事業の開始年月日	平成23年11月1日	
		指定年月日	平成23年11月1日	
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社			
事業所名	愛の家グループホーム座間西栗原			
所在地	(252-0016) 神奈川県座間市西栗原2-15-58			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	令和3年1月25日	評価結果 市町村受理日	令和3年7月5日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静寂な住宅街にある施設です。施設の前は近隣の小学校の通学路になっていて、下校時にはご入居様が施設の前で見守るなど、小学生との触れ合いも大切にしています。認知症のお年寄りと接する機会の少ない子どもたちと、コミュニケーションの機会を設けることで、ご入居様の喜び、子供たちのお年寄りへの理解に繋がればと考えております。できることをできるだけご自分たちで行って頂くこと、認知症でもその方のできることを模索し、増やしていくことを大切にしています。また、ホーム内で家庭菜園も行っていて、収穫の喜び、食する喜びを感じて頂いています。収穫した野菜を近隣の方におすそ分けするなどして、近隣住民との関りも大切にしています。隣にある小学校との関係性も良好で、昨年度は小学6年生を対象に職業講話やグループホームの事、認知症の事を知って頂けるような取り組みも行いました。また、コロナ禍の為現在は中止していますが、座間市社会福祉協議会と連携して、週1回生活困窮者のお子様の受け入れを行い、ホーム内で勉強したり、ご入居様と一緒に食事をしたりしてお年寄り、子どもの触れ合える場所となっています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年3月12日	評価機関 評価決定日	令和3年6月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、相鉄線「かしわ台」駅から徒歩で17～8分の坂道を上った住宅街の小学校の通学路に面したところにあります。運営法人はメディカル・ケア・サービス株式会社で福祉関連事業を全国展開しています。事業所は、法人開催の認知症ケア実践・研究報告会では、全303事業所が参加した、エリア大会を勝ち抜き、ブロック大会で最優秀賞に輝き全国大会で発表しています。内容は「ご入居者様に笑顔を!」「子ども達に明るい未来をサポート!」の2事例についてです。

<優れている点>

コロナ禍のため、積極的に取り組んできた小学生を含む地域との関わりや、入居者の意向にそった買い物や馴染みの場所への外出など、自粛せざるを得ない状況にあります。しかし、事業所内のみでしたが、恒例の秋祭りは入居者に楽しんでもらっています。また、入居者と丹精し育てた家庭菜園の収穫物を近隣におすそ分けするなど、できることの継続に力を入れています。運営推進会議も書面会議になっていますが、毎回意見・要望を把握するよう努めています。会議のメンバーから労いや感謝の言葉が多く届いています。

<工夫点>

業務効率の向上、介護職員の負担軽減、データ活用によるケアの質や専門性の向上のため、介護記録のICT化に取り組み始めています。個別ケアの分析を行い、根拠に基づいたケアの実践につなげていこうとしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	愛の家グループホーム座間西栗原
ユニット名	1階湧水ユニット

V アウトカム項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)
	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)
	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)
	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)
	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) ※コロナ禍の為外出自粛をしているため、外出の機会は少ない
	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)
	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)
	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) ※コロナ禍の為に少ない
	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)
	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼等で法人の理念及びホーム独自の理念の共有を図り、利用者がゆったりと楽しく、その人らしい生活ができるよう実践するよう努めている。	運営法人の理念に基づき各フロアごとの「ご本人の本心を常に考えます」「できる事はやって頂き役割を奪わない」など方針を作っています。毎朝の唱和ほか、会議などで管理者の思いを伝え、職員は実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の小学校の行事に参加したり、ホーム行事に招待したりしている。昨年は小学校6年生全員を対象に職業講話を行った。※内容は認知症の事、グループホームの事	小学生との交流（学習支援・朝の通学時の見守り・講演）や事業所の秋祭りは地域の人々が150名ほど参加をして大盛況したなど、地域との積極的な関わりの取り組みがありますが、今年度はコロナ禍のため自粛しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームの畑で採れた野菜を近所の方々に配ることで交流を図っている。イベントへの参加もチラシを配ったりして、促している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の割合で開催し、会議内容を閲覧できるようにしている。コロナ禍のため自粛中だが、運営推進会議中止のおしらせをし、ご意見をいただき報告書（議事録）にまとめ、個人個人の日頃のご様子をレターにして、全ご家族様にお送りしている。	今年度は対面での会議でなく書面会議に切り替えています。運営状況、事故報告、活動報告の議事録のほか、個別の近況報告書なども送っています。会議のメンバーから労いや感謝の言葉が多く届いています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	ボランティア依頼などを通し、社協などと頻りに連絡をとっている。また、社協と共同して、地域の子どもの勉強をする場を作っている。地域包括主催の施設ケアマネ連絡会に参加し、情報交換や勉強会を行っている。※コロナ禍のため地域の子どもの受け入れは中止している。	市の担当課とは例年であれば運営推進会議の出席を得る中で事業所の実情や取り組みを知ってもらっています。社会福祉協議会との連携も密で、「家庭の事情を抱える子どもたちの学習支援」活動に協力をしてきています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月のユニット会議で日頃のケアの振り返りをし、定期的にホーム長とリーダーで身体拘束について会議を行なっている。議事録を回覧し全スタッフで情報共有をしている。	身体拘束をしないケアについて意識を高めるため、年3回以上の研修実施、3ヶ月ごとの「身体拘束適正化委員会」の開催をしています。チェックリストによる職員各自の自己チェックでの振り返りもしています。玄関は入居者の安全確保のため施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ユニット会議やホーム会議で虐待についての研修を定期的に行なっている。また、身体拘束・虐待予防の会議を定期的に行ない、議事録にて情報共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ホーム会議にて定期的に研修を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	全ての文面を読み上げながら、十分な説明を行い理解、納得を頂いていると思う。ご家族にとって日常的な内容でないため、十分理解を得られてかどうかは不明であるが、不安や疑問点については、都度対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議、面会時等些細なことにも耳を傾ける姿勢で取り組んでいる。利用者や家族からの意見や苦情には真摯に向き合うように努めている。 玄関に苦情、意見箱を設置。	意見箱、面会時、電話連絡時、運営推進会議、法人で実施している家族アンケートなど、家族からの意見や要望が表しやすい機会を設けています。介護記録の電子化導入のその後の状況について家族から質問が出て、回答をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議、朝礼等で法人の理念及びホーム独自の理念の共有を図り、利用者がゆったりと楽しく、その人らしい生活ができるよう実践するよう努めている。	管理者は積極的に現場に入り、状況を確認するほか、職員とコミュニケーションを図っています。年3回の個人面談のほか、随時の面談も行っています。意見・提案の内容によっては本部に上げ、判断を仰ぐこともしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人本部が就業規則の中で、職員が働きやすい環境条件など、その都度整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内規定の研修、ホーム内でも職員会議の際テーマを決めて勉強会を行っているが、介護実技の指導は日常生活の中で個別指導をしているが、全体で指導をする時間が取れていない現状がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域に開設している他のホームの管理者と2月に1回会議を設けている。口腔ケアの勉強会等も実施した。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時は徹底して個別対応を行い、関わりを深め、一人の人として受け止めるよう努め、本人が安心できる環境づくりを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申し込みの段階から要望や不安ごとを伺い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前面接で、本人、家族の意向、現在利用しているサービス内容やその時の様子、本人が大事にしていることなど情報収集し、本人に寄り添いながら、何が必要か見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一方的な支援をせず、本人ができること、できないこと、やりたいこと、嫌なことを把握し、本人が楽しく活動、生活できる支援を心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の思いや生活の様子、いきいきした表情やことばを面会時や電話で伝えることで、家族と共に本人を支えていく関係を築いている。また、家族の面会時には、本人と穏やかに過ごせるよう支援している。※コロナ禍のため面会自粛中		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の生まれたところ、長く生活してきたところに出掛けたり、面会をお願いしている。	馴染みの場所の情報は、本人との会話や家族から得ています。元気で活動的な入居者が多く、以前住んでいた家や店を見に行く「懐かしツアー」を行ったり、馴染みのカラオケ店に行ったりしていましたが、コロナ禍で現在は自粛をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日常の活動や昔からの行事に取り組みながら、気の合う人同士の関係を築く支援を行っている。コミュニケーションがうまく図れない入居者に対しては、職員がさりげなく間に入り支援している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族の相談に対しては真摯に受け止め、必要に応じ支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話や関りを大切にし、本人の思いを感じるよう心掛けている。できる限り本人の思いに沿って支援しているが、共同生活の中で、本人の満足する支援が十分できないのが課題である。	将棋を指したり、オセロゲームをしたり、庭で湯茶を飲んだり、事務所で雑談をしたりなど、リラックスできる雰囲気の中で本人の思いや本音を聞いています。小さなホワイトボードを使い、筆談をする工夫もしています。	買い物に行く、外出をするなどケアプランに落とし込んでいる例もありますが、コロナ禍であり、プラン通りの支援について検討課題としています。今後の取り組みが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時前の本人の情報を家族や在宅サービス利用時の担当者から聞き取りをしたり、日々の暮らしの中で何気ないことばにも注目するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝の挨拶は一人ひとりの顔を見ながら行い、体調等把握に努めている。それに応じ、その日その時で何ができるのか、したいのか見極めるよう努めている。申し送り後介護記録、申し送りノートの確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の思い、家族の思いを聴きとり、職員の意見も参考にしながら、アセスメントに基づいた計画書を作成している。常に情報共有しながら、些細な変化にも対応していくよう努めている。	ケアプランの長期目標は6ヶ月、短期目標3ヶ月で立てています。モニタリングは3ヶ月ごとに行います。入院して体調の変化がある場合には、退院後1ヶ月のケアプランを作成し、様子をみていき、次のプランに繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の介護や介護計画に反映させるため、その日の状態や変化、気づき、対応を具体的に個別記録に記述し、情報の共有とケアの工夫、統一を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の希望に応じて、外泊や外出、外食を行っている。 また、病院、提携医受診支援、送迎、入院者の早期退院の支援も行っている。※コロナ禍のため		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアやご近所の方の協力を受け、暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。 ※コロナ禍のためボランティアの受け入れは一時中断しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関とは常に連携がとれている。本人、職員、医療機関との情報共有や指示、説明は常に行っている。	かかりつけ医は、事業所の協力医療機関、入居前からのかかりつけ、どちらでも希望により選べます。事業所の往診医は月2回の内科、また、毎週の歯科および看護師が来所しています。医療情報ファイルにて情報を共有し、適切な医療を受けられる体制を整えています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医療機関の看護師とも常にコミュニケーションを図るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、できるだけ早期に退院できるよう病院関係者、家族、事業所が一同に話し合いを持つよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、終末期のケアについては、かかりつけ医（提携医）との連携を密にし、家族との話し合いも繰り返し行っている。必要に応じ、家族、医師、事業所で話し合いをしている。都度ケア内容を職員間で確認し合っている。	入居時に重度化および看取りの指針について本人や家族へ説明し、同意を得ています。必要になった段階で医師と看護師が同席して説明し、方針を決めて支援しています。職員へは看取りに必要な研修を実施し、看取り後に振り返りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当マニュアルを作成し、研修、訓練を行っているが、不安を感じている職員もいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害マニュアル、防災委員が主になり定期的に避難訓練を行っている。 近隣の協力者もいる。	年2回以上の避難訓練、および市の防災訓練に参加しています。消防署の立ち合いと助言、夜間想定、必要品の備蓄、近隣の協力を得て災害に備えています。緊急時には、事業所に地域の高齢者の受け入れも可能と自治会長に伝え、協力し合う関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として接し、その人にわかることばでさりげない介助を心掛け、礼儀をもって接している。	職員は、プライバシー保護や権利擁護の研修を受けています。自己チェックと接遇や認知症研修の際に確認し、入居者を尊重し、プライバシーを大切に接するように心掛けています。職員に不適切な対応があった場合は、管理者は面談して伝え、意識を促しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者の『やりたい』という気持ちを大切に、日常生活、趣味、娯楽などを本人の希望に沿って支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	アセスメント、ケアプランに基づき、日々寄り添う中で、その人のペースを把握するよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個性を大切にした自由な服装選び、買い物による購入、なじみの理容、美容院の利用を支援している。2月に1回訪問理美容を利用している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの力を活かしながら、一緒に準備や片づけを行っている。また食材の買い物にも出かけている。※コロナ禍のため中止	献立と食材、昼・夕食の調理は関連会社に委託しています。秋祭りでは、地域の祭りに定番のメニューを用意しています。食事レクリエーション、行事食、家庭菜園での種まきや収穫など、食事を楽しめる支援をしています。準備、盛り付け、食器洗いなど職員と共にしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	健康チェック表に食事量、水分量、排便などを把握し、一人ひとりの健康状態に応じて支援している。また、毎日きな粉牛乳をご提供し、栄養状態の改善を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎日歯磨き、義歯の手入れの支援を行っている。食後のうがい、就寝時義歯については洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用した排泄パターンの把握、アセスメントにより習慣やADLを把握し、不快感を感じない排泄案内、介助を心掛けている。	排泄チェック表、介護記録、飲水量排便の有無や仕草などから声掛け誘導をしています。誘導時には入居者の尊厳に配慮した声掛けを行っています。トイレに歩いていく回数を増やしたことで、車イス利用が、手引き歩行で行けるようになった事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘気味の方には、毎朝ヨーグルトを提供し、可能な限り内服薬に頼らないようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	拒否があった際は無理にお声掛けをしないようにしている。入浴出来なかった時は記録に残し、翌日に入ってもらえるように支援している。	入浴は、週2回午後を基本としていますが、午前中に入る人もいます。湯は一人ひとりその都度入れ替えています。季節の柚子湯も楽しんでもらっています。介護度の高い入居者にはシャワー浴で対応して清潔を保っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	基本的に自由な就寝時間を実施している。睡眠のパターン、日中の行動を把握し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。その日の緊張や疲労の程度に応じ、休息や適度な昼寝の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりが内服している薬の内容を把握した援助を行っている。症状の変化、体調の変化の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人ができる、できないことを把握し、場面に応じて畑作業、園芸、家事等の役割支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物や散歩等の外出支援を積極的に行っている。特に散歩、外気浴は日常的に行っている。地域行事への参加も実施。家族との外出も積極的に支援している。※今はコロナ禍のため実施は自粛している。	散歩と敷地内で外気浴や体操、家庭菜園で種まきと収穫をしています。コロナ禍で自粛していることも多いですが、例年では地域清掃、スーパーでの買い物、希望による外食や居酒屋同行、いちご狩りや動物園などへ出かけ、外の景色や空気に触れています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの能力や希望に応じ、買い物の際は、見守りをしながら本人が支払いをするよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に応じ対応している。字を書けない利用者が多いため、手紙は難しい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関先、共有スペースには季節の花、盆栽や壁画が飾り、心地よく過ごせるよう工夫している。 毎日の散歩の待合所となっている玄関の入り口にはベンチを置き、日向ぼっこをしながらの仲間同士のふれあいの場所としている。	建物内は毎日の掃除をはじめ、換気を定期的に行い、加湿器に除菌水を入れて空間殺菌を行うなど、ウイルス対策をしっかり行って清潔で快適な住環境を整えています。玄関入り口や庭のベンチ、リビングのソファなどは、一人になれる場や仲間同士でくつろげるスペースとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室が一番安心できる空間となるよう環境整備を行なっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居者が自発的にかつ安全に生活できるような環境を目指している。在宅時に使っていたなじみの家具等を持ち込んでいる人もいますが、それぞれの事情で持ち込んでいない人もいます。	換気と消毒を午前、午後、夜間の計3回行っています。入居者は、足踏みマシンや仏壇をはじめ、馴染みや必要な品を持ち込み暮らしています。居室担当制をとっており、職員は家族へのレター作成、衣類の入れ替えや確認、部屋の環境整備などを行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご入居者が自発的にかつ安全に生活できるような環境を目指している。		

事業所名	愛の家グループホーム座間西栗原
ユニット名	2階大風ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) ※コロナ禍の為外出自粛をしているため、外出の機会は少ない	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) ※コロナ禍の為少ない	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼等で法人の理念及びホーム独自の理念の共有を図り、利用者がゆったりと楽しく、その人らしい生活ができるよう実践するよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	近所の小学校の行事に参加したり、ホーム行事に招待したりしている。昨年は小学校6年生全員を対象に職業講話を行った。※内容は認知症の事、グループホームの事		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームの畑で採れた野菜を近所の方々に配ることで交流を図っている。イベントへの参加もチラシを配ったりして、促している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の割合で開催し、会議内容を閲覧できるようにしている。コロナ禍のため自粛中だが、運営推進会議中止のおしらせをし、ご意見をいただき報告書（議事録）にまとめ、個人個人の日頃のご様子をレターにして、全ご家族様にお送りしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	ボランティア依頼などを通し、社協などと頻繁に連絡をとっている。また、社協と共同して、地域の子どもの勉強をする場を作っている。地域包括主催の施設ケアマネ連絡会に参加し、情報交換や勉強会を行っている。※コロナ禍のため地域の子どもの受け入れは中止している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月のユニット会議で日頃のケアの振り返りをし、定期的にホーム長とリーダーで身体拘束について会議を行なっている。議事録を回覧し全スタッフで情報共有をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	ユニット会議やホーム会議で虐待についての研修を定期的に行なっている。また、身体拘束・虐待予防の会議を定期的に行ない、議事録にて情報共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ホーム会議にて定期的な研修を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	全ての文面を読み上げながら、十分な説明を行い理解、納得を頂いていると思う。ご家族にとって日常的な内容でないため、十分理解を得られてかどうかは不明であるが、不安や疑問点については、都度対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議、面会時等些細なことにも耳を傾ける姿勢で取り組んでいる。利用者や家族からの意見や苦情には真摯に向き合うように努めている。 玄関に苦情、意見箱を設置。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議、朝礼等で法人の理念及びホーム独自の理念の共有を図り、利用者がゆったりと楽しく、その人らしい生活ができるよう実践するよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人本部が就業規則の中で、職員が働きやすい環境条件など、その都度整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内規定の研修、ホーム内でも職員会議の際テーマを決めて勉強会を行っているが、介護実技の指導は日常生活の中で個別指導をしているが、全体で指導をする時間が取れていない現状がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域に開設している他のホームの管理者と2月に1回会議を設けている。口腔ケアの勉強会等も実施した。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時は徹底して個別対応を行い、関わりを深め、一人の人として受け止めるよう努め、本人が安心できる環境づくりを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	困りごと、不安なこと、家族の要望を受け止め、それを含めて本人の支援につとめている。その結果サービス利用の効果と思われることや、本人の良いところを積極的に伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前面接で、本人、家族の意向、現在利用しているサービス内容やその時の様子、本人が大事にしていることなど情報収集し、ご本人やご家族の要望沿ったサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護していると思わず共同生活する者同士支え合える関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族の言葉に耳を傾け一緒に支え合う関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の生まれたところ、長く生活してきたところに出掛けたり、旧知の方との面会をしたりしている。※今はコロナ禍の為自粛している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日常の活動や昔からの行事に取り組みながら、気の合う人同士の関係を築く支援を行っている。コミュニケーションがうまく図れない入居者に対しては、職員がさりげなく間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族の相談に対しては真摯に受け止め、必要に応じ支援を行っている。ご退居された、ご家族様から勧められたとの入居相談もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的の何気ない会話から把握したりしている。コミュニケーションが困難な方は過去の生活歴などから推測するなど本人本位で検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御家族のご友人から伺う等、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日報、申し送りノート、日々のカンファを活用して現状の把握と共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の思い、家族の思いを聴きとり、職員の意見も参考にしながら、アセスメントに基づいた計画書を作成している。常に情報共有しながら、些細な変化にも対応していくよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録に記入する以外にも、毎月のユニット会議にて振り返りの場を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の希望に応じて、外泊や外出、外食を行っている。 また、病院、提携医受診支援、送迎、入院者の早期退院の支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	生け花、歌、ギター演奏、ハンドマッサージ等のボランティアの方々にも協力して頂きながら、豊かな暮らしを楽しめるよう努めている。※コロナ禍のため中止している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関とは常に連携がとれている。本人、職員、医療機関との情報共有や指示、説明は常に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医療機関の看護師とも常にコミュニケーションを図るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、できるだけ早期に退院できるように病院関係者、家族、事業所が一同に話し合いを持つよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、終末期のケアについては、かかりつけ医（提携医）との連携を密にし、家族との話し合いも繰り返し行っている。必要に応じ、家族、医師、事業所で話し合いをしている。都度ケア内容を職員間で確認し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当マニュアルを作成し、研修、訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害マニュアル、防災委員が主になり定期的に避難訓練を行っている。 運営推進会議などで地域との交流体制も話しあっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として接し、その人にわかることばでさりげない介助を心掛け、礼儀をもって接するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者の『やりたい』という気持ちを大切にし、日常生活、趣味、娯楽などを本人の希望に沿って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	アセスメント、ケアプランに基づき、日々寄り添う中で、その人のペースを把握するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝洋服を選んで頂き、鏡の前で身だしなみを整えていただくよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事準備は一緒に行なっている。出来る限り全員が行なえる工夫を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量は電子介護記録記入し、常に確認できるようにして対応している。栄養バランスは栄養士が考えた献立を提供。食べる量は状態や体重に応じ調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問デンタルに必要な応じ相談し、毎食後口腔状態に合わせて口腔ケアを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄は電子介護記録記入し、排泄パターンの把握に努め、出来るだけトイレに座っていたできるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量の少ない方には好みの飲み物を提供。外気浴では散歩を行なっていて、自然排便ができるように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	拒否があった際は無理にお声掛けをしないようにしている。入浴出来なかった時は記録に残し、翌日に入っていただけのように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人のタイミングでお昼寝や休息されている。就寝時間も決めておらずそれぞれのタイミングで入床されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服用している薬や副作用を理解に努めている。また、往診記録を活用し薬の変更時の把握が出来る仕組みが出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人やご家族からも趣味、嗜好を伺い生活の中に取り入れる支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望がある方はその日に行けない事もあるが一緒にスケジュールを考え支援に努めている。御家族からも希望を伺い、ご協力いただき外出を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物をした際はご自身で支払いをしていただく様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御希望により電話をしている。また使用していないが携帯電話を所持している方もおりいつでも話が出来ると言う事で安心に繋がっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	生活感や季節感を取り入れた装飾を心がけている。リビングは日当たりも良く、日光浴をされている利用者様もいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファの場所やテーブルの配置を工夫をしている。自由にテレビを観たり、本や新聞を読んだりできるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に使用していたものや使い慣れたものをお持ちになるようにご家族に提案している。適宜スタッフがお部屋の状況を確認する等して、住居環境の把握に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室内の導線確保を行い安全に歩行が出来る工夫や、ご自分のものと分かる工夫を行っている。出来る限り自立した生活が出来るよう配慮している		

2020年度

目標達成計画

事業所名 豪農グループ 産期西平原

作成日: 令和 3 年 6 月 30 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	60	20時初め外出の機会が少なくなる。入居者様にも楽しんでいただけるようにしたい。	施設内で行えるイベントを増やしていく	4月5日からのイベント企画として楽しんでいただけるようにしたい。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月